

福祉サービス第三者評価結果報告書【令和5年度】

令和5年 12月 17日

東京都福祉サービス評価推進機構
公益財団法人 東京都福祉保健財団理事長 殿

〒 150-0012

所在地 東京都渋谷区広尾2丁目16番26号

評価機関名 特定非営利活動法人 グローバルスカイ

認証評価機関番号

機構 07 - 175

電話番号 03-3400-3346

代表者氏名 升田 忠昭



以下のとおり評価を行いましたので報告します。

評価者氏名・担当分野・評価者養成講習修了者番号	評価者氏名		担当分野	修了者番号
	①	升田 忠昭	経営	H0403061
	②	野島 靖子	経営	H0403096
	③	岩田 千鶴子	福祉	H2101010
	④			
	⑤			
	⑥			
福祉サービス種別	認可保育所			
評価対象事業所名称	タムスわんぱく保育園瑞江			
事業所連絡先	〒	132-0011		
	所在地	東京都江戸川区瑞江2丁目22番12号 エクセルⅢ1階		
	TEL	03-5664-6888		
事業所代表者氏名	園長 小野 登美子			
契約日	2023年 8月 22日			
利用者調査票配付日(実施日)	2023年 9月 11日			
利用者調査結果報告日	2023年 10月 16日			
自己評価の調査票配付日	2023年 9月 11日			
自己評価結果報告日	2023年 10月 16日			
訪問調査日	2023年 10月 20日			
評価合議日	2023年 10月 20日			
コメント (利用者調査・事業評価の工夫点、補助者・専門家等の活用、第三者性確保のための措置などを記入)	職員調査は説明会にて第三者評価の趣旨やアンケート記入方法を説明し、評価への協力を呼び掛けてもらった。利用者調査の補完として、活動や遊びの様子、食事等のサービスの実施場面を見学した。訪問調査は、園長・主任との対面方式で質疑応答及び書類調査を実施し、評価項目について確認した。施設見学等は感染予防に努めながらできるだけ短時間でいった。評価全般にわたり、利用者の個人情報保護に留意し、また第三者性を保持することに努めた。			

評価機関から上記及び別紙の評価結果を含む評価結果報告書を受け取りました。
本報告書の内容のうち、

- 機構が定める部分を公表することに同意します。
- 別添の理由書により、一部について、公表に同意しません。
- 別添の理由書により、公表には同意しません。

令和5年 12月 17日

事業者代表者氏名 小野 登美子



1	<p>理念・方針（関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）</p> <p>事業者が大切にしている考え（事業者の理念・ビジョン・使命など）のうち、特に重要なもの（上位5つ程度）を簡潔に記述 （関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）</p> <p>1)tumsグループポリシー 『あんしん・まごころ』 2)【保育理念】わんぱくつ子を育て、園に関わるすべての人にまごころをもって安心を提供します。 3)【保育目標・めざす子ども像】子ども主体の保育を考え、実践し、追及していく。第一志望の入園者を100%にし、地域で選ばれる園になる。 4)◎元気な子◎思いやりのある子◎意欲のある子◎挨拶をする子◎感性豊かな子</p>
2	<p>期待する職員像（関連 カテゴリー5 職員と組織の能力向上）</p> <p>(1)職員に求めている人材像や役割</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナが続き、予定や行事内容が急遽変更になることもあった。そのような状況でも臨機応変に出来ることを探ったり、変更する勇気をもって取り組む姿。 ・チームワーク・専門性(0.1. 2歳児の乳児保育の重要性) ・温かさ・素直さ ・学ぶ姿勢 <p>(2)職員に期待すること(職員に持って欲しい使命感)</p> <p>命を預かる仕事に居ることを意識しながら、『あったかい保育』を園児、保護者、職員、法人に関わる職員みんなで作りあげていく。また、地域に愛される保育園を目指していく。</p>

調査対象

調査対象：利用者総数44名の保護者世帯(41世帯)を調査対象として実施した。

調査方法

調査方法：アンケート方式
アンケート方式で行った。アンケート用紙を、保育園から保護者全員に配布、回答は返信用封筒を密封し園に設置した回収箱に投函してもらい、評価機関に返送してもらった。本評価機関にて集計を行なった。

利用者総数	44
利用者家族総数(世帯)	41
共通評価項目による調査対象者数	41
共通評価項目による調査の有効回答者数	29
利用者家族総数に対する回答者割合(%)	70.7

利用者調査全体のコメント

総合的な満足度は「大変満足」が51.7%、「満足」が44.8%であり、合わせて96.5%と大変高い満足度を得ている。満足度の一番高いのは「問1.活動は子どもの心身の発達に役立っている」が100%である。次に「問13.気持ちを大切にされた対応」が96.6%と続いている。一番満足度の低いのは「問12.いさかやいじめ等があった場合の職員の対応」及び「問17.職員以外の人にも相談できることを伝えてくれたか」で62.1%となっている。その他の意見として、行事、特に運動会や発表会を希望しているとの意見が寄せられている。今後、さらに丁寧に他の機会を作って理解を求めていくことが期待される。またアンケートの最後に日ごろ感じていることを書いていただき、利用させて頂いて大変感謝している、という意見が多かった。内容的には、清潔な環境・信頼できる職員・栄養バランスの良い食事・積極的なコミュニケーション等々であり、中には、2歳児クラスで卒園になってしまうのが残念、との感想もあった。一方で英語やリトミックがあるといい・請求書は電子化を希望・職員が少ない・病児保育の予約がとりにくい・職員間で意見が違う、等々の意見が寄せられた。

利用者調査結果

共通評価項目 コメント	実数			
	はい	どちらとも いえない	いいえ	無回答 非該当
1. 保育所での活動は、子どもの心身の発達に役立っているか	29	0	0	0
回答割合は「はい」100%「どちらともいえない」0%「いいえ」が0%であった。自由記述には「園で身に着けたことも多く、本当にありがたい」「子どもの状況を把握してくれている」との声が寄せられている。一方で「わんぱくっ子を育てるので教育がほとんどされないため、他園に行くと差があると聞いた」との記載があった。				
2. 保育所での活動は、子どもが興味や関心を持って行えるようになっているか	27	2	0	0
回答割合は「はい」93.1%「どちらともいえない」6.9%「いいえ」が0%であった。自由記述には「子どもの気持ちを第一に対応してくれる」との声が寄せられている。一方で連絡帳の内容に対して「何に興味を持って反応していたのかなどを書いてほしい」との記載があった。				
3. 提供される食事は、子どもの状況に配慮されているか	24	5	0	0
回答割合は「はい」82.8%「どちらともいえない」17.2%「いいえ」が0%であった。自由記述には「家では砂糖はなるべく控えているが保育園で缶詰の果物が出るのが少し気になる」「好き嫌いが残り食べ残しが多いため食べられるようになると良い」との声が寄せられている。				

4. 保育所の生活で身近な自然や社会と十分関わっているか	21	6	2	0
回答割合は「はい」72、4%「どちらともいえない」20、7%「いいえ」が6、9%であった。自由記述には「行事では運動会や発表会をやってほしい」との声が寄せられている。保護者アンケートの設問には行事も含めての生活となっている。				
5. 保育時間の変更は、保護者の状況に柔軟に対応されているか	24	1	0	4
回答割合は「はい」82、8%「どちらともいえない」3、4%「いいえ」が0%であった。自由記述には「とても助かっている」との声が寄せられている。今年度は延長保育の利用者数が少ない状況である。				
6. 安全対策が十分取られていると思うか	20	8	1	0
回答割合は「はい」69、0%「どちらともいえない」27、6%「いいえ」が3、4%であった。自由記述には「ある程度の怪我は仕方ないが、頭をぶつけて流血があったので」との記載があった。				
7. 行事日程の設定は、保護者の状況に対する配慮は十分か	25	4	0	0
回答割合は「はい」86、2%「どちらともいえない」13、8%「いいえ」が0%であった。自由記述には「懇談会が土曜日で助かった」との声が寄せられている。一方で「行事があまりないので判断ができない」との記載があった。				
8. 子どもの保育について家庭と保育所に信頼関係があるか	23	5	1	0
回答割合は「はい」79、3%「どちらともいえない」17、2%「いいえ」が3、4%であった。自由記述には「お迎え時その日あったことを詳しく教えてくれるのでとても嬉しいです」「今では職員と強い信頼関係を結び非常に手厚くお世話していただいている」との声が多く寄せられている。				
9. 施設内の清掃、整理整頓は行き届いているか	25	4	0	0
回答割合は「はい」86、2%「どちらともいえない」13、8%「いいえ」が0%であった。自由記述には「コトンの隙間や穴のほこりが気になる」との声が寄せられている。				
10. 職員の接遇・態度は適切か	25	4	0	0
回答割合は「はい」86、2%「どちらともいえない」13、8%「いいえ」が0%であった。自由記述には「言葉遣いがきれいで意識の高さを感じる」との声が寄せられている。				

11. 病気やけがをした際の職員の対応は信頼できるか	27	2	0	0
回答割合は「はい」93、1%「どちらともいえない」6、9%「いいえ」が0%であった。自由記述には、「噛まれてしまったとき報告してくれる。自分の子が相手を傷つけたかも知りたい」「噛みつきが続いていたので不安であったが、すぐ対策をとってくれたので感謝している」との記述があった。				
12. 子ども同士のトラブルに関する対応は信頼できるか	18	7	0	4
回答割合は「はい」62、1%「どちらともいえない」24、1%「いいえ」が0%であった。自由記述には「今はないが、3歳の子がよく噛まれていて、詳しくわからなかった」「園の方針でいさかいをぎりぎりまで職員が見ているのは理解したいが、噛みつきやひっかき傷が少し多いのは心配」との声が寄せられている。				
13. 子どもの気持ちを尊重した対応がされているか	28	1	0	0
回答割合は「はい」96、6%「どちらともいえない」3、4%「いいえ」が0%であった。自由記述には「ツンデレなところを理解し楽しんでくれるので助かる」との声が寄せられている。				
14. 子どもと保護者のプライバシーは守られているか	27	0	0	2
回答割合は「はい」93、1%「どちらともいえない」0%「いいえ」が0%であった。自由記述はなし。				
15. 保育内容に関する職員の説明はわかりやすいか	25	4	0	0
回答割合は「はい」86、2%「どちらともいえない」13、8%「いいえ」が0%であった。自由記述には「保育の様子を見ていて時々、職員一人に子どもが5人以上いて、職員たりていないのが心配」「乳児も音楽との触れ合いがあるべき」との声が寄せられている。				
16. 利用者の不満や要望は対応されているか	21	3	0	5
回答割合は「はい」72、4%「どちらともいえない」10、3%「いいえ」が0%であった。自由記述には「職員には大変お世話になっているので言いづらいことも第三者に伝えられるのはありがたい」との声が寄せられている。				
17. 外部の苦情窓口（行政や第三者委員等）にも相談できることを伝えられているか	18	5	0	6
回答割合は「はい」62、1%「どちらともいえない」17、1%「いいえ」が0%であった。自由記述はなし。				

I 組織マネジメント項目 (カテゴリー1～5、7)

No.	共通評価項目	
	カテゴリー1	
1	リーダーシップと意思決定	
	サブカテゴリー1(1-1)	
	事業所が目指していることの実現に向けて一丸となっている	サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 7/7
	評価項目1 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)を周知している 評点(〇〇)	
	評価	標準項目
	●あり ○なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、職員の理解が深まるような取り組みを行っている ○非該当
	●あり ○なし	2. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、利用者本人や家族等の理解が深まるような取り組みを行っている ○非該当
	評価項目2 経営層(運営管理者含む)は自らの役割と責任を職員に対して表明し、事業所をリードしている 評点(〇〇)	
	評価	標準項目
	●あり ○なし	1. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任を職員に伝えている ○非該当
	●あり ○なし	2. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任に基づいて職員が取り組むべき方向性を提示し、リーダーシップを発揮している ○非該当
	評価項目3 重要な案件について、経営層(運営管理者含む)は実情を踏まえて意思決定し、その内容を関係者に周知している 評点(〇〇〇)	
	評価	標準項目
	●あり ○なし	1. 重要な案件の検討や決定の手順があらかじめ決まっている ○非該当
	●あり ○なし	2. 重要な意思決定に関し、その内容と決定経緯について職員に周知している ○非該当
	●あり ○なし	3. 利用者等に対し、重要な案件に関する決定事項について、必要に応じてその内容と決定経緯を伝えている ○非該当
	カテゴリー1の講評	
	法人理念及び保育理念・保育方針・保育目標を多様な方法で周知するように努めている 新卒採用職員にはグループ法人の理念、ビジョン、マナーなどの法人研修がある。事業所内では年度初めに保育理念・保育方針・保育目標が記載された年間計画を示し、職員会議にて目指すべき姿を共有している。ホームページには、理念・方針・目標が明示されており、事業所が目指している保育が一目で分かる様になっている。パンフレットには、理念等と併せて園の特徴・保育の特徴が明記され、入園を検討している保護者等に対して分かりやすいものになっている。保護者に対しては、園のしおりに理念等が詳細に記載され、保護者会などでも伝えている。 管理者は職員会議等で自らの役割を明確にすると共に主任との連携を図っている 管理者は、年度末に次年度の年間の全体計画を作成し、年度当初の職員会議には事業所が目指す姿(理念・方針・目標)を伝えると共に、管理者・主任の役割分担表を示し、自らの役割を明確にしている。管理者は、職員会議の場において、自らの方針を繰り返し伝えている。新しい取り組みが始まる際は方針や方向性を示し、職員自らが考え行動できるように働きかけるようにしている。職員に対する個別の対応においても、リーダー会議や職員会議、職員面談などで、経営層は自らの役割を伝えると共に、理念・方針・目標の浸透を図っている。 組織の意思決定プロセスは明確化され、決定事項については速やかに周知している 法人に園長会、運営会議、主任会議、法人合同会議等があり、重要な案件については法人と情報共有しながら決定している。事業所内の意思決定は、主に園長・主任により、決定している。決定事項については、リーダー会議、職員会議、クラスの打ち合わせミーティングなどがあり、会議を通じて周知が図られている。必要に応じ朝礼の場においても周知がされている。保護者に対しては、周知が必要な事項については、ICTやSNSを活用した配信や園のしおり、各種のおたより、リーフレット等で周知を図っている、必要時には電話で直接で連絡をしている。	

カテゴリ-2		
2 事業所を取り巻く環境の把握・活用及び計画の策定と実行		
サブカテゴリ-1(2-1)		
事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 6/6
評価項目1 事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している		評点(○○○○○○)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 利用者アンケートなど、事業所側からの働きかけにより利用者の意向について情報を収集し、ニーズを把握している	○非該当
●あり ○なし	2. 事業所運営に対する職員の意向を把握・検討している	○非該当
●あり ○なし	3. 地域の福祉の現状について情報を収集し、ニーズを把握している	○非該当
●あり ○なし	4. 福祉事業全体の動向(行政や業界などの動き)について情報を収集し、課題やニーズを把握している	○非該当
●あり ○なし	5. 事業所の経営状況を把握・検討している	○非該当
●あり ○なし	6. 把握したニーズ等や検討内容を踏まえ、事業所として対応すべき課題を抽出している	○非該当
サブカテゴリ-2(2-2)		
実践的な計画策定に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 5/5
評価項目1 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画及び単年度計画を策定している		評点(○○○)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 課題をふまえ、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画を策定している	○非該当
●あり ○なし	2. 中・長期計画をふまえた単年度計画を策定している	○非該当
●あり ○なし	3. 策定している計画に合わせた予算編成を行っている	○非該当
評価項目2 着実な計画の実行に取り組んでいる		評点(○○)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた、計画の推進方法(体制、職員の役割や活動内容など)、目指す目標、達成度合いを測る指標を明示している	○非該当
●あり ○なし	2. 計画推進にあたり、進捗状況を確認し(半期・月単位など)、必要に応じて見直しをしながら取り組んでいる	○非該当
カテゴリ-2の講評		
<p>保護者アンケート調査の実施や職員面談などによる各意向の把握に努めている</p> <p>利用者ニーズを把握するため、保護者参加行事の後はアンケート調査を行い、年度末にはSNSや職員の対応・要望等の利用者アンケートを実施し、調査結果はサービス改善のために活用されている。また職員については、法人主催による満足度調査・意向調査を実施し、年に2回園長が面談を行っている。事業所は区認可事業の地域型保育事業に位置付けられ、事業所内保育事業ともなっており、区の小規模保育所連絡会に所属し、区や他の保育園からの情報を得ている。法人の合同会議・園長会議においても情報収集を行い、事業所の経営課題の把握に努めている。</p> <p>認可外保育施設を閉園し、区認可地域型保育事業となり計画的な事業運営が行われている</p> <p>事業所は元々は認可外保育施設があったが、区認可地域型保育事業(事業所内保育事業:保育所型)として再スタートしている。同施設内には別法人が運営している病児保育室があり、連携している。法人グループは設立30周年であるが医療・介護・保育と大きな組織であり、園長は昨年4月に園長となっており、法人の保育事業部と連携し、計画及び予算を立案し、計画を進め予算を管理している。現在は運営の安定を第一としているが、今後地域との連携強化及びICT化を図っていく計画がある。</p> <p>保育目標を達成するため全体的な計画及び各種計画に沿って進捗状況を確認している</p> <p>「全体的な計画」には、まず保育理念・目標・方針が明記され、続いて社会的責任、人権尊重、説明責任、情報保護、苦情処理・解決について説明がなされ、行事予定などが記載されている。具体的保育内容の後は保健支援、環境・衛生管理、安全対策・事故防止、保護者・地域支援等々が盛り込まれている。その全体的な計画を基に、年間指導計画、月間指導計画、週案、食育計画、保健計画が作成される。計画の進捗状況については、リーダー会議、職員会議、クラス会議等により、実績確認を行うと共に次月への課題などについて検討を行っている。</p>		

カテゴリ-3		
3 経営における社会的責任		
サブカテゴリ-1(3-1)		
社会人・福祉サービス事業者として守るべきことを明確にし、その達成に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 2/2
評価項目1 社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理などを周知し、遵守されるよう取り組んでいる 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 全職員に対して、社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などを周知し、理解が深まるよう取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	2. 全職員に対して、守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などが遵守されるよう取り組み、定期的に確認している。	○非該当
サブカテゴリ-2(3-2)		
利用者の権利擁護のために、組織的な取り組みを行っている		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 4/4
評価項目1 利用者の意向(意見・要望・苦情)を多様な方法で把握し、迅速に対応する体制を整えている 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 苦情解決制度を利用できることや事業者以外の相談先を遠慮なく利用できることを、利用者に伝えている	○非該当
●あり ○なし	2. 利用者の意向(意見・要望・苦情)に対し、組織的に速やかに対応する仕組みがある	○非該当
評価項目2 虐待に対し組織的な防止対策と対応をしている 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 利用者の気持ちを傷つけるような職員の言動、虐待が行われることのないよう、職員が相互に日常の言動を振り返り、組織的に防止対策を徹底している	○非該当
●あり ○なし	2. 虐待を受けている疑いのある利用者の情報を得たときや、虐待の事実を把握した際には、組織として関係機関と連携しながら対応する体制を整えている	○非該当
サブカテゴリ-3(3-3)		
地域の福祉に役立つ取り組みを行っている		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 5/5
評価項目1 透明性を高め、地域との関係づくりに向けて取り組んでいる 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 透明性を高めるために、事業所の活動内容を開示するなど開かれた組織となるよう取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	2. ボランティア、実習生及び見学・体験する小・中学生などの受け入れ体制を整備している	○非該当
評価項目2 地域の福祉ニーズにもとづき、地域貢献の取り組みをしている 評点(〇〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 地域の福祉ニーズにもとづき、事業所の機能や専門性をいかした地域貢献の取り組みをしている	○非該当
●あり ○なし	2. 事業所が地域の一員としての役割を果たすため、地域関係機関のネットワーク(事業者連絡会、施設長会など)に参画している	○非該当
●あり ○なし	3. 地域ネットワーク内での共通課題について、協働できる体制を整えて、取り組んでいる	○非該当

カテゴリ-3の講評

法人主催の研修への参加と事業所内の研修により保育の質と職業倫理向上に努めている

新卒採用の職員に対しては法人が主催する新入社員研修、2年目研修、3年目研修等があり、リーダー層にはリーダー研修、管理職研修とキャリアに応じ職業倫理の向上につながる研修が受講できる仕組みとなっている。非常勤職員や中途採用職員に対しては、主に入職時にOJTによる研修を受けている。保育士協会のチェックリストにより自己評価を行い、職員更衣室に人権についての掲示をするなど工夫している。人権について外部研修を受講し伝達研修を実施することや、内部研修で歴史や保育について学ぶなど、「保育の質」の向上に努めている。

多様な方法で保護者の意向を把握し、意見等には園長が迅速かつ丁寧に対応している

苦情解決制度については入園時の説明時に配布する「園のしおり」に、社会性・透明性を確保するための外部委員としての第三者委員について記載がされ、「ご意見・ご要望の解決のための仕組みについて」、報告手順や苦情責任者・苦情受付担当者の役割分担が示され、説明もされている。苦情箱が設置されているが、苦情が入っていたことはない。行事アンケート・年度末アンケートの意見の他、日常の意見・要望については、早期に園長が面談を行うことや、必要に応じて法人本部及び行政とも連携して迅速かつ丁寧に対応している。

区小規模保育所連絡会の研修の対象保育園を広げて開催するなど様々に貢献している

区小規模保育所連絡会の研修の担当として、著名な外部講師に依頼し、結果区役所協力のもと、対象保育園を民間の認可保育園に広げて開催し、多くの参加者を募ることができた。園長は区全体で学び合える風土を作っていきたいと考えている。事業所の定員には、法人従業員枠と地域の方の枠があるが、従業員枠を地域に開放して、地域の方に多く利用してもらっている。法人内に障がい者雇用育成の専門チームがあり、時々来園しお手伝いいただいている。なお、法人のこの取り組みは、障害者雇用エクセレントカンパニー賞（東京都知事賞）を受賞した。

カテゴリ-4		
4	リスクマネジメント	
サブカテゴリ-1(4-1)		
リスクマネジメントに計画的に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 5/5
評価項目1 事業所としてリスクマネジメントに取り組んでいる		評点(〇〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所が目指していることの実現を阻害する恐れのあるリスク(事故、感染症、侵入、災害、経営環境の変化など)を洗い出し、どのリスクに対策を講じるかについて優先順位をつけている	○非該当
●あり ○なし	2. 優先順位の高さに応じて、リスクに対し必要な対策をとっている	○非該当
●あり ○なし	3. 災害や深刻な事故等に遭遇した場合に備え、事業継続計画(BCP)を策定している	○非該当
●あり ○なし	4. リスクに対する必要な対策や事業継続計画について、職員、利用者、関係機関などに周知し、理解して対応できるように取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	5. 事故、感染症、侵入、災害などが発生したときは、要因及び対応を分析し、再発防止と対策の見直しに取り組んでいる	○非該当
サブカテゴリ-2(4-2)		
事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 4/4
評価項目1 事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 情報の収集、利用、保管、廃棄について規程・ルールを定め、職員(実習生やボランティアを含む)が理解し遵守するための取り組みを行っている	○非該当
●あり ○なし	2. 収集した情報は、必要な人が必要ときに活用できるように整理・管理している	○非該当
●あり ○なし	3. 情報の重要性や機密性を踏まえ、アクセス権限を設定するほか、情報漏えい防止のための対策をとっている	○非該当
●あり ○なし	4. 事業所で扱っている個人情報については、「個人情報保護法」の趣旨を踏まえ、利用目的の明示及び開示請求への対応を含む規程・体制を整備している	○非該当
カテゴリ-4の講評		
<p>事業継続計画(BCP)を策定し、感染症及び自然災害に分けて必要な対策をとっている</p> <p>管理者は、本年度深刻な感染症及び水害や地震に備え、事業継続計画(BCP)を策定している。まず、事前対策として、地域との連携推進、防災組織の体制の構築、保護者との連携などがあげられ、自然災害の事前対策として非常時に優先的に実施する業務、施設として、避難場所経路、避難誘導、備蓄品、非常用持ち出し品などが挙げられている。次にBCP発動時の対応として、感染症、自然災害に分けて、発災時の時間経過別の対応など、最後にBCPの検証が挙げられている。備蓄品として3日分の食料、衛生用品、医療物品、排泄用品、毛布などがある。</p> <p>危機管理徹底マニュアルがあり、様々なリスクを想定して対応出来るようにしている</p> <p>危機管理徹底マニュアルがあり、人材管理、保育環境、安全管理、危機管理、衛生管理、健康管理、情報管理等、様々なリスクを想定し洗い出し、それらに対応できるものとなっている。人材管理では、人権尊重と個人情報保護・社会人としての基本行動指針・虐待対応なども含まれている。危機管理では災害対策・避難訓練・地震・不審者・ケガなどである。安全チェックリストがあり、毎月園内全域、園庭・玄関・トイレ・各遊具などを詳細にチェックしている。園には15台のカメラが設置され、職員室にモニターが流れている。</p> <p>個人情報保護規程に基づき個人情報を適切に管理し、情報の利用・保護に取り組んでいる</p> <p>事業所における個人情報の管理については、個人情報保護規定と危機管理徹底マニュアルの「情報管理」に基づいて行われている。個人名が入った書類などは鍵付きの書庫で管理している。個人情報の使用については入園時に、写真(園内の掲示・パンフレット・ホームページ)やおたより名前等が載ること、保護者の情報は区役所等と情報共有することなどについて同意を得ている。児童相談所との連携内容など情報の機密性を踏まえ、閲覧可能な職員は限定している。個人情報は原則持ち出し禁止とし、不要物はシュレッターにかけるなど適切に管理している。</p>		

カテゴリー5		
5 職員と組織の能力向上		
サブカテゴリー1(5-1)		
事業所が目指している経営・サービスを実現する人材の確保・育成・定着に取り組んでいる		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 12/12
評価項目1 事業所が目指していることの実現に必要な人材構成にしている		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所が求める人材の確保ができるよう工夫している	○非該当
●あり ○なし	2. 事業所が求める人材、事業所の状況を踏まえ、育成や将来の人材構成を見据えた異動や配置に取り組んでいる	○非該当
評価項目2 事業所の求める人材像に基づき人材育成計画を策定している		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)が職員に分かりやすく周知されている	○非該当
●あり ○なし	2. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)と連動した事業所の人材育成計画を策定している	○非該当
評価項目3 事業所の求める人材像を踏まえた職員の育成に取り組んでいる		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 勤務形態に関わらず、職員にさまざまな方法で研修等を実施している	○非該当
●あり ○なし	2. 職員一人ひとりの意向や経験等に基づき、個人別の育成(研修)計画を策定している	○非該当
●あり ○なし	3. 職員一人ひとりの育成の成果を確認し、個人別の育成(研修)計画へ反映している	○非該当
●あり ○なし	4. 指導を担当する職員に対して、自らの役割を理解してより良い指導ができるよう組織的に支援を行っている	○非該当
評価項目4 職員の定着に向け、職員の意欲向上に取り組んでいる		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所の特性を踏まえ、職員の育成・評価と処遇(賃金、昇進・昇格等)・称賛などを連動させている	○非該当
●あり ○なし	2. 就業状況(勤務時間や休暇取得、職場環境・健康・ストレスなど)を把握し、安心して働き続けられる職場づくりに取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	3. 職員の意識を把握し、意欲と働きがいの向上に取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	4. 職員間の良好な人間関係構築のための取り組みを行っている	○非該当
サブカテゴリー2(5-2)		
組織力の向上に取り組んでいる		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 3/3
評価項目1 組織力の向上に向け、組織としての学びとチームワークの促進に取り組んでいる		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 職員一人ひとりが学んだ研修内容を、レポートや発表等を通じて共有化している	○非該当
●あり ○なし	2. 職員一人ひとりの日頃の気づきや工夫について、互いに話し合い、サービスの質の向上や業務改善に活かす仕組みを設けている	○非該当
●あり ○なし	3. 目標達成や課題解決に向けて、チームでの活動が効果的に進むよう取り組んでいる	○非該当

カテゴリ5の講評

法人本部と連携し必要な人材確保に努め、キャリアパスにつながる職員育成を行っている

直接採用を担当するのは法人本部の採用課であるが、採用課と連携して法人、事業所ともに人材確保・定着に取り組んでいる。昨年度は認可外保育事業をやめたこともあり、6名採用で5名退職であったが、双方の協力のもとに人材の確保に努めた。見学会や学生の園見学日には園の求める人材像や園の方針などを伝え、理解をいただいた方にエントリーしてもらえるように話をしている。意向調査や面談などで希望も勘案しながら職員の育成・異動を行うことができるような職場環境の構築を目指している。評価シートにより職員自ら学べるようにしている。

法人キャリア別研修や外部研修、法人研究発表会などにより、資質向上に取り組んでいる

法人主催のキャリア別研修は、それぞれ年間通して実施されている。新卒の職員育成では、新入社員研修、新卒3カ月研修、新卒12カ月研修と、2年目研修、3年目研修があり、リーダー基礎研修、リーダーシップ研修、管理職研修など、キャリアに合わせて継続的に実施される研修により、資質向上に努めている。研修は研修報告書を作成し、伝達研修も実施している。さらに法人では年に1回、医療、介護、保育などの各事業所のサービスの質の向上のための取り組みをまとめ、研究発表をする場を設けている。

リーダー層を中心としたコミュニケーションにより、良好な人間関係ができている

利用者定員45名、職員25名、3クラス制の比較的小規模な保育園であり、コミュニケーションは取りやすい環境がある。定期的にクラスミーティングを行い、保育の相談や今後の目標を明確にし、リーダーを中心に課題解決に取り組んでいる。また、会議では研修報告書を基に発表し、情報共有を行いつつ意見交換も行っている。さらに、リーダー会議などで相談がある場合は、その年齢を経験した職員や現に対応している内容を共有しながら、みんなで解決策を話し合える環境となっており、良好な人間関係ができ、チームワークの促進に取り組んでいる。

カテゴリー7	
7 事業所の重要課題に対する組織的な活動	
サブカテゴリー1(7-1)	
事業所の重要課題に対して、目標設定・取り組み・結果の検証・次期の事業活動等への反映を行っている	
評価項目1 事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その1)	
前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ) 事業所の設置者は医療法人であり、運営委員会の開催が求められているが、今まで開催できずにいた。昨年度後半の2回目の保護者会で第三者委員の方を招いて開催することとした。早めに日程調整を行った。事前に保護者へ、行事、SNSの活用方法、職員の対応、その他要望等について利用者アンケートを実施し、アンケート結果をまとめたものをもとに、運営についてなども含め、会議を実施した。行事についての要望が多かったが、園児の日常を伝えることを大切に、内容を検討していくこととした。今年度の開催についても検討している。	
目標の設定と取り組み	<input checked="" type="radio"/> 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った <input type="radio"/> 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった <input type="radio"/> 具体的な目標が設定されていなかった
取り組みの検証	<input checked="" type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った <input type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていなかった(目標設定を行っていなかった場合も含む) <input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
検証結果の反映	<input checked="" type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた <input type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない <input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
評価項目1で確認した組織的な活動や評語の選択に関する講評 設置者が社会福祉法人ではなく医療法人であるため、運営委員会の設置が必要であるが、運営委員会が開催できずにいたことについては、区からも指摘されており、保護者会で保護者が集まる日に開催することで調整をした。管理者は昨年度から本園の園長となられ、慣れない中大変なことであったと想像できる。事前アンケートで、行事、SNSの活用方法、職員の対応、その他要望等について保護者アンケートを実施しており、第三者評価アンケートの意見と合わせるとなお一層保護者の要望がわかるようで評価できる。行事の希望については対象が乳児ということもあり、判断が難しいと感じるが検討していくことを期待する。	

評価項目2

事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その2)

前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ)

事業所は、区認可の地域型保育事業(事業所内保育事業)であり、補助金や加算金の対象となることが少ない為、園児受け入れを積極的に行い、安定的な園運営に努める必要がある。区担当者とも連携し、従業員枠は法人内で事前に入園希望者の把握を行った上で、地域枠においては早めの募集を実施した。同施設内には別法人が運営している病児保育室があり、一つの園の特徴として捉え、連携している。病児保育室の入室した園児がいた際は情報の共有を行い、次の日の保育の備えている。避難訓練など必要に応じて行事の合同参加を実施している。感染情報など互いに確認できることは強みともなり、引き続き連携していく予定である。

<p>目標の設定と 取り組み</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った ○ 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった ○ 具体的な目標が設定されていない
<p>取り組みの検証</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った ○ 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていなかった(目標設定を行っていなかった場合も含む) ○ 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
<p>検証結果の反映</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた ○ 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない ○ 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である

評価項目2で確認した組織的な活動や評語の選択に関する講評

事業所は、区認可の地域型保育事業(事業所内保育事業)であり、補助金や加算金の対象となることが少ない為、他の認可事業以上に園児受け入れを積極的に行う必要がある。法人内での入園希望者の把握を行った上で、従業員枠を地域枠に振り替えて45名の定員の園児を確保するように努めている。事業所は駅に近く交通の便利な場所にあり、一つの強みといえる。さらに同施設内には別法人が運営している病児保育室が2022年4月に開設され、一つの園の特徴として捉え、連携している。病児保育室の入室した園児がいた際は情報の共有を行い、次の日の保育の備えている。避難訓練など必要に応じて行事の合同参加を実施し、感染情報など互いに確認できることは強みともなり、評価できる。

II サービス提供のプロセス項目(カテゴリ6-1～3、6-5～6)

No.	共通評価項目	
サブカテゴリ1		
1	サービス情報の提供	サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 4/4
評価項目1 利用希望者等に対してサービスの情報を提供している		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
● あり ○ なし	1. 利用希望者等が入手できる媒体で、事業所の情報を提供している	○ 非該当
● あり ○ なし	2. 利用希望者等の特性を考慮し、提供する情報の表記や内容をわかりやすいものになっている	○ 非該当
● あり ○ なし	3. 事業所の情報を、行政や関係機関等に提供している	○ 非該当
● あり ○ なし	4. 利用希望者等の問い合わせや見学の要望があった場合には、個別の状況に応じて対応している	○ 非該当
サブカテゴリ1の講評		
<p>園の内容が具体的に利用希望者に伝わるよう、パンフレットやSNSで情報を伝えている</p> <p>保育園の利用希望者に、園が提供しているサービスや子どもの園での様子がわかるように、ホームページやパンフレットで情報を配信・配布している。園の所在地、最寄り駅からの経路、園内図、保育料、サービスの種類等、保護者が必要としている内容が読みやすく表示されている。また園での子どもたちの生活やあそびの様子はSNSを通じて発信され利用希望者に分かりやすい有効な手段となっている。ホームページやパンフレットにはいつでも問い合わせができるよう、電話番号・ファックス番号を載せており保護者のニーズを考慮した情報となっている。</p> <p>園が提供するサービスは、江戸川区と連携を図り、家庭状況を考慮したものとなっている</p> <p>保育利用希望者は、江戸川区のホームページ、「子育て支援」の項目からも、地域ごとの園の紹介や内容、空き情報等を見ることができ、また入園の申し込み方法やその時期、提出書類等が詳しく説明されている。園は江戸川区の子育て支援課・保育課と連携を図ると共に保護者のニーズに合うよう調整を図り、利用希望者に見合ったサービスができるよう心がけている。子どもの養育について、園での解決が難しい場合には、区役所だけではなく他機関と協力し、情報の共有を図っている。</p> <p>見学希望者や入園前の個別の相談希望者を随時受け付け、保護者支援として対応している</p> <p>利用希望者等からの問い合わせや、見学の希望があった場合には積極的に受け付けている。希望者が幼い子どもを他者に預けることにためらっていたり、子育てにつまずきそうな親子に対しては、子どもの成長や発達について子育てのプロとしてのアドバイスをしている。それを保護者への育児支援として園は捉えている。保護者からの質問は子育ての経験がないことからくるものが多く、些細なことであっても丁寧に答え、また保育園の生活が安心して安全なものであることを、実際の園児の様子を通して保護者への理解を深められるようにしている。</p>		

サブカテゴリ-2		サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況	6/6
2	サービスの開始・終了時の対応		
評価項目1 サービスの開始にあたり保護者に説明し、同意を得ている		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. サービスの開始にあたり、基本的ルール、重要事項等を保護者の状況に応じて説明している		○非該当
●あり ○なし	2. サービス内容について、保護者の同意を得るようにしている		○非該当
●あり ○なし	3. サービスに関する説明の際に、保護者の意向を確認し、記録化している		○非該当
評価項目2 サービスの開始及び終了の際に、環境変化に対応できるよう支援を行っている		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. サービス開始時に、子どもの保育に必要な個別事情や要望を決められた書式に記録し、把握している		○非該当
●あり ○なし	2. 利用開始直後には、子どもの不安やストレスが軽減されるように配慮している		○非該当
●あり ○なし	3. サービスの終了時には、子どもや保護者の不安を軽減し、支援の継続性に配慮した支援を行っている		○非該当
サブカテゴリ-2の講評			
<p>入園にあたり、園の取り組みについて説明し、一人ひとりの個別の状況を把握している</p> <p>園は、入園前に保護者と個人面談を行い、「園のしおり」に沿って保育園の基本的な事柄を説明している。また保護者からも今後の保育に必要なことであることを説明した上で子ども一人ひとりの状況を聞き取り、面談シートに記入している。子どもの現在までの生育状況の他、食事の時間や分量・入眠時の癖・平熱・アレルギーがある等の心配事や、困っていることなども合わせて具体的に聞きとっている。面談終了後は担任だけでなく職員全体で個々の状況を確認・共有し、児童票に必要な箇所を記載している。</p> <p>保護者の意向を聞き、提供するサービスの説明と契約事項の同意、確認をしている。</p> <p>保護者の勤労状況と家庭状況を踏まえ、保育園が提供する保育サービスと保護者の意向が合うよう面談で話し合い、確認し、同意書を得ている。アレルギー対応の子どもについては、かかりつけ医師からの依頼書を提出すること、保護者・担任・栄養士との面談後に除去食の対応となること、また延長保育に関しては所定の申し込み用紙を使う、土曜日の保育は勤務証明書が必要なことなどそれぞれの必要なサービスの取り決めの説明をして間違いがないようにしている。個人情報保護の観点から保護者の許可が必要な事項に関しては同意書で確認をとっている。</p> <p>子どもの不安、保護者の不安が軽減されるよう職員全体で丁寧な対応を心がけている</p> <p>入園開始時は、無理なく園生活が送れるように慣らし保育を行っている。慣らし保育は年齢に合わせて日程や時間を決めてはいるが、子どもや保護者の状況に合わせて柔軟に調整するよう配慮している。登園時には、保育士が子どもをしっかり見て対応し、帰りにはその日の子どもの様子を保護者に説明し、保護者との情報交換を大切にしている。入園前の見学で保護者が園の雰囲気をつかみやすくしていることも安心の材料となっている。担任は個々の子どもの状況を把握し、遊具や保育士を含めた全ての環境に配慮して子どもたちが安心して生活できるよう努めている。</p>			

サブカテゴリ-3		
3	個別状況に応じた計画策定・記録	サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 13/13
評価項目1 定められた手順に従ってアセスメント(情報収集、分析および課題設定)を行い、子どもの課題を個別のサービス場面ごとに明示している		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもの心身状況や生活状況等を、組織が定めた統一した様式によって記録し把握している	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもや保護者のニーズや課題を明示する手続きを定め、記録している	○非該当
●あり ○なし	3. アセスメントの定期的見直しの時期と手順を定めている	○非該当
評価項目2 全体的な計画や子どもの様子を踏まえた指導計画を作成している		評点(〇〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 指導計画は、全体的な計画を踏まえて、養護(生命の保持・情緒の安定)と教育(健康・人間関係・環境・言葉・表現)の各領域を考慮して作成している	○非該当
●あり ○なし	2. 指導計画は、子どもの実態や子どもを取り巻く状況の変化に即して、保育の過程を踏まえて作成、見直しをしている	○非該当
●あり ○なし	3. 個別的な計画が必要な子どもに対し、子どもの状況(年齢・発達の状況など)に応じて、個別的な計画の作成、見直しをしている	○非該当
●あり ○なし	4. 指導計画を保護者にわかりやすく説明している	○非該当
●あり ○なし	5. 指導計画は、見直しの時期・手順等の基準を定め、必要に応じて見直ししている	○非該当
評価項目3 子どもに関する記録を適切に作成する体制を確立している		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子ども一人ひとりに関する必要な情報を記載するしくみがある	○非該当
●あり ○なし	2. 指導計画に沿った具体的な保育内容と、その結果子どもの状態がどのように推移したのかについて具体的に記録している	○非該当
評価項目4 子どもの状況等に関する情報を職員間で共有化している		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 指導計画の内容や個人の記録を、保育を担当する職員すべてが共有し、活用している	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもや保護者の状況に変化があった場合の情報について、職員間で申し送り・引継ぎ等を行っている	○非該当
●あり ○なし	3. 子ども一人ひとりに対する理解を深めるため、事例を持ち寄り等話し合う機会を設けている	○非該当
サブカテゴリ-3の講評		
<p>園の理念の下、子ども主体の保育を行うことを念頭に、計画や実践に力を入れている</p> <p>園の保育方針は「子ども一人ひとりの生きる力を育てること」である。毎日の生活や遊びを通して生きる力の芽を引き出すことは、保育士が投げかけられた課題でもある。法人が作成した全体的な計画は保育園の保育の目標の達成のための総合的な計画であり、保育が長期的見直しを持って進められるように作成されている。クラスの担任は子どもの個々の状況を把握し、年間計画を立て、月案、個別と発達過程を踏まえた活動を考えている。指導計画が計画だけで終わらないように、実践後の振り返りを行い様々な点を考慮して次に繋ぐようになっている。</p> <p>個別計画は個々の状況を担任同士で確認・共有し、見直しを持って進めている。</p> <p>入園前から引き継ぐ子ども一人ひとりの発達状況は、各年齢・月齢ごとに発達経過記録に記入し、その他の必要な個別に関わる事項については、児童票に記載している。朝の視診から夕方子どもが帰るまでの一日を、グループに分かれて保育する場合も、子どもが遊びたいコーナーに移った時など、保育者同士が子どもの様子を伝え合い、子どもの行動について後で「わからなかった」ということがないよう、配慮面も計画に入れて子どもの育ちを見守っている。発達経過については、子どもを見る目を確かなものにするため園内研修で研鑽を積んでいる。</p> <p>指導計画は子どもの「発達の連続性」を大切に、保護者に必要に応じて説明をしている</p>		

子どもの発達発達過程において一人ひとりには多少の差はあるものの、順を追って成長していくことに留意し、指導計画を作成している。四季の感覚、行事への興味関心、遊びの面白さ等の活動に「ねらい」や「目的とするところ」が具体的に示され、配慮面が出されている。保育の内容がどのようなものなのかについては、保護者懇談会で説明し、毎月の「わんぱくだより」に載せている。わんぱくだよりは各クラスの子どもたちの生活面・遊び面が詳しく掲載され、保育園が子どもの発達をどのように捉えて進めてくれているかが理解しやすいものになっている。

サブカテゴリー5		
5	プライバシーの保護等個人の尊厳の尊重	サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 5/5
評価項目1 子どものプライバシー保護を徹底している		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもに関する情報(事項)を外部とやりとりする必要がある場合には、保護者の同意を得るようにしている	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもの羞恥心に配慮した保育を行っている	○非該当
評価項目2 サービスの実施にあたり、子どもの権利を守り、子どもの意思を尊重している		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 日常の保育の中で子ども一人ひとりを尊重している	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもと保護者の価値観や生活習慣に配慮した保育を行っている	○非該当
●あり ○なし	3. 虐待防止や育児困難家庭への支援に向けて、職員の勉強会・研修会を実施し理解を深めている	○非該当
サブカテゴリー5の講評		
<p>個人情報の取扱いについては、保護者の意向を確認し、同意を得て適正に運用している</p> <p>入園時に園児の一人ひとりの様々な情報を収集しているが、保育に必要な事項であること、正当な理由なく外部に漏らさないと説明している。また、「園のしおり」でも、個人情報が記載された全ての書類は園内で厳重に保管し、保育以外の使用はしないことを明示しており、個人が特定できる全ての書類は施錠された書庫で管理されている。SNSの配信においても保護者の同意書を領収の上写真・動画を全てチェックして配信している。職員は守秘義務を厳守し、個人情報は適正に守られている。</p> <p>集団ではあっても、子ども一人ひとりに合った対応がなされ、個人が尊重されている。</p> <p>子どもの自尊心を大切にし、乳児ではあっても個人の尊厳を尊重した保育をおこなっている。排泄時には沐浴室に設置されたオムツ交換台にて行い、沐浴室のドアは閉めることができるため、外側から見えないようになっている。幼児トイレも外側から見えないように開閉扉のついた守られた個室になっている。急な訪問者が来ても守られた空間が保たれており幼いころからの望ましい習慣といえる。また保育者は生活や遊びの中で大きな声を出して子どもに不安や動揺を与えないよう関わり方に留意し、外国籍の子どもとの関わりも同様に丁寧に対応されている。</p> <p>子どもの人権について職員で話し合いを深め、一人ひとりに寄り添った保育をしている</p> <p>近年、家庭や保育園で幼い子どもへの虐待がニュースで取り上げられていることについて、園では様々な事例を出して話し合いを持つようになっている。幼い子どもの生命を大切に守ることの保育者の任務について細かな点を出し合い、互いの研鑽に繋げている。園を訪問した際に、園庭で遊ぶ数名の園児を見かけた。樹木の後ろに隠れている。本人たちは隠れているつもりでも楽しそうな笑い声ですぐわかり、近くにいる保育者の愛情豊かな応答的な接し方を見ることができた。あどけない子どもの何を守ろうとしているのか何を大切にしているのかが納得できる。</p>		

サブカテゴリ-6		
6	事業所業務の標準化	サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 5/5
評価項目1 手引書等を整備し、事業所業務の標準化を図るための取り組みをしている		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 手引書(基準書、手順書、マニュアル)等で、事業所が提供しているサービスの基本事項や手順等を明確にしている	○非該当
●あり ○なし	2. 提供しているサービスが定められた基本事項や手順等に沿っているかどうか定期的に点検・見直しをしている	○非該当
●あり ○なし	3. 職員は、わからないことが起きた際や業務点検の手段として、日常的に手引書等を活用している	○非該当
評価項目2 サービスの向上をめざして、事業所の標準的な業務水準を見直す取り組みをしている		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 提供しているサービスの基本事項や手順等は変更の時期や見直しの基準が定められている	○非該当
●あり ○なし	2. 提供しているサービスの基本事項や手順等の見直しにあたり、職員や保護者等からの意見や提案、子どもの様子を反映するようにしている	○非該当
サブカテゴリ-6の講評		
<p>法人が作成した各種のマニュアルは所定の棚に置き、随時活用できるようになっている</p> <p>各種マニュアルは、読みやすく書かれ分かりやすいものになっている。安全管理・災害時避難や受け渡し・感染症予防・事故防止・見学者対応など、園の活動に必要なことかつ命を守るための組織の任務を考えて対策を立てている。各マニュアルは所定の位置に置き、確認したいときに取り出すようにしている。各マニュアルについては職員全員で話し合うよりも、それぞれに必要な時に確認するようにしている。毎日の食事で使用するアレルギー除去やコロナ禍における感染防止策についてはそれぞれに手順を理解しているが他のマニュアルは随時見るようにしている。</p> <p>保育園の業務に必要な事項については、「園のしおり」で保護者と意識を共有している</p> <p>「園のしおり」は園での生活全般にわたってルールや持ち物提出書類などが書かれているため、毎日の保育は保護者と共通の理解の下進めている。「園のしおり」を保護者に入園前に説明し確認をとっていることで、毎日の保育園での子どもの生活が安定している状況がある。子どもが病気の時の対応・子どもの体調が悪く休みの連絡が入った時の対応・子どもが怪我をした時の対応など保育士はそれぞれの対応についてチェック漏れの無いよう努めている。アクシデントや問題があった時は、園長、主任に報告・連絡・相談して解決するよう取り組んでいる。</p> <p>新年度確認事項や外国籍の文化の違いによる対応等は、全職員の周知が望まれる</p> <p>園では、新年度を迎える時期に、新年度確認事項を常勤職員で話し合いをしている。食事・睡眠・排泄・着脱・清潔・子どもとの接し方・活動・保健等の各分野にどのように対応するか、また外国籍の子どもへの対応や手順等を確認し見直しをしている。園は非常勤職員の配置も8名と多く、非常勤職員による力も大きな存在となっている。常勤・非常勤の労働形態にとらわれず、子どもに関わる全ての職員が同じ意識で仕事ができるよう、こうした確認事項や手順を職員みんなのものにし、対応がさらにスムーズにいくことを期待したい。</p>		

Ⅲ サービスの実施項目(カテゴリー6-4)

		サブカテゴリー4	
サービスの実施項目		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況	36 / 36
1 評価項目1 子ども一人ひとりの発達の状態に応じた保育を行っている			
		評点(〇〇〇〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 発達の過程や生活環境などにより、子ども一人ひとりの全体的な姿を把握したうえで保育を行っている		○非該当
●あり ○なし	2. 子どもが主体的に周囲の人・もの・ことに興味や関心を持ち、働きかけることができるよう、環境を工夫している		○非該当
●あり ○なし	3. 子ども同士が年齢や文化・習慣の違いなどを認め合い、互いを尊重する心が育つよう配慮している		○非該当
●あり ○なし	4. 特別な配慮が必要な子ども(障害のある子どもを含む)の保育にあたっては、他の子どもとの生活を通して共に成長できるよう援助している		○非該当
●あり ○なし	5. 発達の過程で生じる子ども同士のトラブル(けんか・かみつき等)に対し、子どもの気持ちを尊重した対応をしている		○非該当
●あり ○なし	6. 【5歳児の定員を設けている保育所のみ】 小学校教育への円滑な接続に向け、小学校と連携をとって、援助している		○非該当
評価項目1の講評			
<p>子ども一人ひとりの発達状況を把握し、園で落ち着いた生活ができるよう配慮している</p> <p>乳児15名・1歳児14名・2歳児15名の共同生活が落ち着いて過ごせるよう、子ども一人ひとりのこれまでの生活や発達の状況を保護者から聞き取り、また保育園でも身体の発育状況や活動範囲、情緒面の状況などをしっかり見て把握するようにしている。生活の連続性に沿って一日の生活が子どもにとって無理がないように朝夕の保護者からの伝言、保育園からの一日の様子をしっかりと伝え合っている。保育園が初めての保護者には分からないことがないように、丁寧に説明し理解してもらえる様に心がけている。毎日の活動の様子は日記に記録している。</p> <p>子ども自身が環境に働きかけ、主体的に活動できるよう立案し実施している</p> <p>保育園は、子どもが生涯にわたる人間形成にとって、極めて重要な時期の大半を過ごす場所である。園が掲げる保育方針は「生きる力を育てる」ことであり、そのためには「今をよりよく生きること」を保育の計画に盛り込み、実践をするようにしている。子どもが自らの興味と関心をその環境に働きかけられるよう、保育者は室内の空間をより発展的に工夫設置している。動きのある遊び、静かな遊びを固定し、コーナーをロッカーで仕切る等子どもが主体的に動くことをねらっている。子どもの興味や関心が中断しないための計画案を出し、配慮事項をだしている。</p> <p>子ども同士のトラブルは互いの気持ちを受け止め安定を図るようにしている</p> <p>保育中に起こり得るケンカ、噛み付き・ひっかき傷は発達の段階でやむを得ない事もあるが、子どもの活動内容や遊びの準備の不備によってトラブルに発展しないよう、職員で話し合いを深めている。玩具の取り合い、順番の取り合い等でもどちらか一方を注意するのではなく双方の気持ちの代弁者となって保育者は対応している。人との関わり、相手の気持ちなどに留意し丁寧に丁寧に対応している。噛み付き、ひっかき傷によって保護者の不信につながらないよう細心の注意を払うとともに保育者も環境の一部として気持ちの安定を図ることを心がけている。</p>			

2 評価項目2 子どもの生活が安定するよう、子ども一人ひとりの生活のリズムに配慮した保育を行っている		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 登園時に、家庭での子どもの様子を保護者に確認している	○非該当
●あり ○なし	2. 発達の状態に応じ、食事・排せつなどの基本的な生活習慣の大切さを伝え、身につくよう援助している	○非該当
●あり ○なし	3. 休息(昼寝を含む)の長さや時間帯は子どもの状況に配慮している	○非該当
●あり ○なし	4. 降園時に、その日の子どもの状況を保護者一人ひとりに直接伝えている	○非該当
評価項目2の講評		
<p>毎朝登園時には、視診をおこなうとともに、保護者から家庭での様子を聞いている</p> <p>登園時には、朝の挨拶とともに保護者と子どもの様子を保育者がしっかり見て聞くようにしている。いつもの子どもの様子と違っていたら丁寧に具体的に聞くようにしている。家庭での生活は園での子どもの生活に密接に関わっていることに配慮し、朝の受け入れは保育の始まりとして職員間で重要視している。保護者から子どもの状態を詳しく聞き、引継ぎノートに記録している。保護者にとっては朝の忙しい時間ではあるが、必要事項として理解を得ている。また連絡ノートからも睡眠時間・食事・体温等家庭からの具体的な生活内容を把握している。</p> <p>子どもが進んで食べたり眠ったりすることを大切にしつつ、生活の連続性を考慮している</p> <p>乳児や1歳児の子どもにとっては、生活は連続したものではなく、寝たいときに眠り起きたいときに起きるなど、生活は連続したものではないため、一日24時間の時間のリズムをとれるよう家庭と連携をとっている。夜遅くまで起きていたとか、朝食は眠いので食べられなかったということがないよう、子どもの一日の生活を元気で過ごせるように保護者と協力し進めている。個々の状況に配慮しつつ入眠のリズムを作るようにし、食事やおやつ・遊びの時間等も子どもたち自身が次の行動を見通せるよう日々の生活を過ごしている。</p> <p>降園時には、その日の子どもの体調や様子を保護者に丁寧に知らせている</p> <p>夕方のお迎え時には、一日の子どもの様子を保護者に伝えている。生活面のことで食事・睡眠・排泄等の状況、遊びや活動面での状況など連絡ノートで具体的に伝えきれないことを、伝えるようにしている。朝、保護者が心配していた子どもの体調やぐずり等については、一日の状況からその後の子どもの様子を具体的に話すようにし、保護者の安心を得るようにしている。家庭は家庭のやり方、保育園は保育園やり方ではなく、子どもの一日を保育園と家庭で連携し子どもが穏やかに過ごせるよう取り組んでいる。保護者への心配りにも保護者から感謝されている。</p>		
3 評価項目3 日常の保育を通して、子どもの生活や遊びが豊かに展開されるよう工夫している		評点(〇〇〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもの自主性、自発性を尊重し、遊びこめる時間と空間の配慮をしている	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもが、集団活動に主体的に関われるよう援助している	○非該当
●あり ○なし	3. 子ども一人ひとりの状況に応じて、子どもが言葉(発声や喃語を含む)や表情、身振り等による応答的なやり取りを楽しみ、言葉に対する感覚を養えるよう配慮している	○非該当
●あり ○なし	4. 子どもが様々な表現を楽しめるようにしている	○非該当
●あり ○なし	5. 戸外・園外活動には、季節の移り変わりなどを感じることができるような視点を取り入れている	○非該当
●あり ○なし	6. 生活や遊びを通して、子どもがきまりの大切さに気付き、自分の気持ちを調整する力を育てられるよう、配慮している	○非該当
評価項目3の講評		
<p>園内で保育者以外の人と触れ合う中で、応答を楽しむ姿がある</p> <p>保育園を訪れる見学者や関係者に園庭やクラスで遊んでいる子どもたちは穏やかな表情で歓迎している。見学者や関係者は子どもたちに笑顔で挨拶をし子どもたちもそれに応えているようである。「タムスαさん」は法人グループ内で働く方で、日ごろ保育園の作業や準備を手伝ってくれる。タムスαさんが園庭でプランターに花の種を蒔いているのを子どもたちは興味深そうに見ており、プランターから芽が出てきたら子どもたちは喜んでくれるだろうとの思いで作業を続けているのが子どもたちに伝わっている。子どもたちには周囲のすべてが環境となっている。</p> <p>生活や遊び・活動が、子ども主体となるように環境づくりを工夫している</p> <p>子どもを取り巻く人や物はすべて子どもの環境になることを意識し、保育者たちは環境作り力に力を入れている。保育者が遊びの一つひとつを子どもたちに説明し、保育者自身の理想とする遊びの展開ではなく、子どもが個々に主人公になって遊びを見つけ関心と興味を持って遊びこめるようにしている。園庭での虫探し・ネコジャラシでダンゴムシと追いかけて・植込みの樹木の後ろに回ってかかれんぼと、子どもの発想を次に繋げられるようにしている。室内でもみんなが同じ遊びではなく、個々に興味があるもので遊び込めるよう職員間で連絡をとっている。</p> <p>天気の良い日は積極的に戸外に出かけ、自然に触れ合うようにしている</p>		

保育園近隣には、東部フレンド公園・つつじ公園・みづえ中央公園等、自然豊かな公園が存在しており、天気の良い日には積極的に公園に行き遊びや散歩を楽しむようになっている。目にするもの、耳にするものがすべて子どもにとって新鮮に移る。草花の色・木々の葉の音、四季折々の自然に触れることができる。乳児はバギーの中から草花や木々を眺め、手をかざして興味深そうにしていたり、1・2歳児は公園で遊ぶ他の子どもたちや地域の人との調和を図り、周囲に合わせて遊び方を調整するなど安全に気をつけながら、社会性の芽生えが促されている。

4 評価項目4 日常の保育に変化と潤いを持たせるよう、行事等を実施している		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 行事等の実施にあたり、子どもが興味や関心を持ち、自ら進んで取り組めるよう工夫している	○非該当
●あり ○なし	2. みんなで協力し、やり遂げることの喜びを味わえるような行事等を実施している	○非該当
●あり ○なし	3. 子どもが意欲的に行事等に取り組めるよう、行事等の準備・実施にあたり、保護者の理解や協力を得るための工夫をしている	○非該当
評価項目4の講評		
<p>乳児・1・2歳児の発達状況に照らし合わせて、行事を楽しんでいる</p> <p>年度初めの保護者懇談会で行事についてのねらいを説明し、保護者の参加するものについては理解と協力をお願いしている。乳児及び1・2歳児の発達を踏まえ、行事を目的とせず、日々の生活の中から経験した楽しいことを大切に行事に反映させていくことや、親子と一緒に楽しめるものにしたことの内容について理解をいただいている。行事は入園式・卒園式・七夕・お正月節分などまた親子で楽しめる行事として親子ふれあいデー・わんぱく会がある。日常の保育の中で四季折々の日本の伝統文化への興味関心を子どもなりに楽しむ姿がある。</p> <p>親子で遊ぶことに重点を置き、子どもの成長を共有できるようにしている</p> <p>集中力や意思表示が未熟である乳児や1・2歳児にとって、「親子で楽しめる活動」は保護者が側にいることでさらに安心感を持ち活動に向かうことができる。保護者も行事に参加することで園での生活や子どもの成長を実感することができている。保護者はこうした活動をする中で、保育者が子どもとどのように関わり合っているかを学んだり、保護者同士で会話をしたり良い刺激となっている。年度の終わりに行事についてのアンケートを実施している。44世帯のうち23人の回収率となっており、残り約半数の意見はどうかの疑問が残る。</p> <p>毎月行う行事は3つあり、子どもにとって身近なものになっている</p> <p>毎月おこなう行事として誕生会・身体測定・避難訓練の3つがある。誕生会はみんなでホールに集まり、誕生日の園児を祝ってあげている。身体測定は体重・身長を測り、大きくなっていることを確認し保育者から声をかけてもらっている。測定後は児童票に記録し、健康の記録で保護者にも確認をいただいている。避難訓練は災害時の被害を最小にとどめ、なおかつ子どもたちがいざとなった時パニック状態にならないようまた、保育者がうまく誘導できることをねらっている。子どもたちは様々な活動で健康で安全な生活を作り出す力の基盤を培っている。</p>		
5 評価項目5 保育時間の長い子どもが落ち着いて過ごせるような配慮をしている		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 保育時間の長い子どもが安心し、くつろげる環境になるよう配慮をしている	○非該当
●あり ○なし	2. 保育時間が長くなる中で、保育形態の変化がある場合でも、子どもが楽しく過ごせるよう配慮をしている	○非該当
評価項目5の講評		
<p>全体的な計画に長時間保育のねらいを定め月間指導計画におおしている</p> <p>園が示す長時間保育のねらいは、子どもが長時間保育によって子どもに心身の負担が生じることがないようにすること。家庭的でゆったりと過ごすことができる環境を整えること。子ども一人ひとりの気持ちを受け止めながら温かく落ち着いて過ごせるよう配慮するとしている。このねらいに沿って、月間指導計画に長時間保育の項目を作り、保育の内容や方法、職員の協力体制、家庭との連携を位置づけている。四季の寒暖や水分補給、日没とともに心細くなる子どもの心理を尊重し、保育をしている。</p> <p>子どもの遊ぶ場所とくつろげるコーナーを分け、安心感を大事にしている</p> <p>長時間を過ごす子どもの体調や遊びへの意欲を考慮し、子ども自身が安心していられる場所を選べるように室内の空間を工夫している。マットを所定の場所においたり、年齢にあった玩具を取り揃えて置いたり、寂しい気持ちにならないよう保育士が側と一緒に遊ぶようにしている。夏の暑さでは、空調を整えたり風通しを良くし、水分補給をまめにとるなど子どもの体調に留意している。甘えたい気持ちを覆い隠して子どもが遊んでいることがないように子どもの気持ちを受け止め安心できる時間を作っている。降園の際は一日の様子・延長の様子を伝えている。</p> <p>保護者からの急な要望に適宜対応し、保護者の立場に配慮している。</p> <p>延長保育時間は18時半から19時30分となっている。利用できる年齢は1歳児以上となっており、勤務時間と通勤時間を考慮して決定している。仕事の延長でやむを得ず通常の迎えが難しい時は所定の用紙に申し込みをし30分で400円の料金となっている。保育者は急に長時間の保育になった子どもに対しても、心穏やかに過ごせるよう配慮して進めている。</p>		

6 評価項目6 子どもが楽しく安心して食べることができる食事を提供している		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもが楽しく、落ち着いて食事をとれるような雰囲気作りに配慮している	○非該当
●あり ○なし	2. メニューや味付けなどに工夫を凝らしている	○非該当
●あり ○なし	3. 子どもの体調(食物アレルギーを含む)や文化の違いに応じた食事を提供している	○非該当
●あり ○なし	4. 食についての関心を深めるための取り組み(食材の栽培や子どもの調理活動等)を行っている	○非該当
●あり ○なし	5. 保護者や地域の多様な関係者との連携及び協働のもとで、食に関する取り組みを行っている	○非該当
評価項目6の講評		
<p>安定した環境と雰囲気を作り、子どもの食べる意欲を大切にしている 同じクラスであっても月齢や発達段階に幅があり、食べ方や量、時間などの一人ひとりの違いに配慮して、個々の状況に合わせて食事をとるようにしている。子どもが自分で食べようとする気持ちを大切に、子どもが食べたいという意思を大事にしている。一斉に「いただきます」「ごちそうさま」ではなく自由な空気感で食事がとれるようにしている。食育の全体的な計画に、食を育む基礎として乳児・1・2歳までの保育の内容を明示しており、安定した計画の中で食が保たれている。</p> <p>メニュー・味付け・切り方を工夫し、子どもの味覚の幅を広げられるようにしている 給食は令和5年4月から保育園直営になり、完全給食となった。栄養士によって作成された献立を園内で調理できることで、さらに綿密に食に関する連携が職員同士でできるようになっている。調理師は薄味にするために、野菜の出汁などを工夫したり、誕生日のメニューをいつもと違った雰囲気にする等子どもとの食が進むよう取り組んでいる。調理前の段階では保育士と調理師で話し合いながら、食育活動も実施している。丸いスイカに触ってみたり、食材をちぎったりと子どもの食への関心が出ており、調理師の日々試行錯誤する様子がうかがえる。</p> <p>アレルギー除去や文化の違いによる食事の提供に対応をしている アレルギー食品がある子どもについては、かかりつけ医師の診断後、生活管理指導票を園に提出してからの実施となっている。翌月の献立表に照らし合わせて保護者・担任・栄養士が面談を行い、除去あるいは代替え食を中心として行っている。外国の文化の違いによる食事についても保護者と連携をとりながら進めている。また全ての園児に対しては未食チェック表を保護者から出していただき確認をすうえで食事を提供するようにしている。食べることを楽しみ、子ども一人ひとりが元気に育つよう取り組んでいる。</p>		
7 評価項目7 子どもが心身の健康を維持できるよう援助している		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもが自分の健康や安全に関心を持ち、病気やけがを予防・防止できるように援助している	○非該当
●あり ○なし	2. 医療的なケアが必要な子どもに、専門機関等との連携に基づく対応をしている	○非該当
●あり ○なし	3. 保護者と連携をとって、子ども一人ひとりの健康維持に向けた取り組み(乳幼児突然死症候群の予防を含む)を行っている	○非該当
評価項目7の講評		
<p>子どもの体調は朝の視診で確かめ、安全に気を付けて保育をしている 園は乳児・1・2歳児の集団施設であるため、感染症や怪我を未然に防ぐ意味でも、朝の視診をしっかりとこなしている。また連絡ノートでも子どもの健康状態を保護者に書いていただいている。特に睡眠時間は重要であり、保育者も朝の時点で確認をとるようにしている。子どもが園を休みたいとの連絡があった場合は病気かどうか、病気の場合は病名や表情を朝の時点で知らせるようお願いをしている。保育園で子どもが38度を超える熱が出た場合は保護者に連絡を入れるなど、乳幼児の健康の維持対応に努めている。</p> <p>法人系列の医師及び看護師との連携の下、保育者が身近に相談できる安心感がある 園がめざす子ども像の一つに「元気な子」を挙げている。健康な心と体を育て、自ら健康で安全な生活を作り出す力を養うことは、これからの時代を生きる子どもにとって極めて重要なことである。そのため健康や衛生面について、乳児は毎月1回、1・2歳児は年2回の健康診断を行っている。歯科検診は年1回、身体測定は月1回おこない「健康の記録」に記入し保護者に結果を知らせている。感染症に関することや、投薬、怪我、子どもの急激な変化、緊急時の対応についても詳しく「園のしおり」に明示され、かかりつけ医との連携が安心をもたらしている。</p> <p>家庭との連絡を密にし、子どもの健康状態を把握・共有して保育を行っている 保護者にとって、子どもが健康で毎日を楽しく保育園に通うことは大きな喜びである。また保育園も生命の保持、情緒の安定を第一に考え保育を進めている。近年新型コロナウイルス感染症の拡大で保育園を欠席する、あるいは感染者の多い保育園は休園になるなどの事態があった。園は、保護者と連携し子どもの健康について情報交換に努め、早めの対応をとるようにしている。「感染症の発生のお知らせ」は保険ボードで知らせている。また乳児突然死症候群についても午睡中のチェック表と確認、保護者には注意喚起をして、安全対策を促している。</p>		

8 評価項目8 保護者が安心して子育てをすることができるよう支援を行っている		評点(〇〇〇〇〇)
評価	標準項目	
● あり ○ なし	1. 保護者には、子育てや就労等の個々の事情に配慮して支援を行っている	○ 非該当
● あり ○ なし	2. 保護者同士が交流できる機会を設けている	○ 非該当
● あり ○ なし	3. 保護者と職員の信頼関係が深まるような取り組みをしている	○ 非該当
● あり ○ なし	4. 子どもの発達や育児などについて、保護者との共通認識を得る取り組みを行っている	○ 非該当
● あり ○ なし	5. 保護者の養育力向上のため、園の保育の活動への参加を促している	○ 非該当
評価項目8の講評		
<p>産休明けからの保育園として、社会のニーズに responding している</p> <p>これまで江戸川区の乳児保育は、保育ママ制度を中心におこなわれてきたが、2015年にスタートした子ども子育て支援新制度によって、保護者の選択肢は広がった。園の保育サービスには、産休明け保育・延長保育事業・病児病後児保育事業・外国人児童受け入れ等があり、多岐に渡って子どもの養育に力を入れた取り組みをしている。保護者の就労形態も様々であり、それに見合ったサービスを受けることができる。多様化する時代の波の中で子どもが子どもらしく生きることの大切さを「子どもが主体の保育」として掲げ新しい保育を築いている。</p> <p>毎日の生活を通して子育ての楽しさを共感しつつ、保護者支援をおこなっている</p> <p>全体的な計画に、園の説明責任として「保護者や地域社会に向け、園の理念・方針・保育活動の目的・計画を応答的な手段で説明することある。「育児の主体は保護者にある」ことが保護者自身が気づけるように、保育園での様々な取り組みによって保護者の「子ども理解」に繋がるようにしている。保育者が子どもの心身の成長を保護者と共感することで、保護者自身も今まで気が付かなかった子どもの心理や表現がわかるようになっていく。朝夕の子どもの送り迎えの際の保護者への保育士の明るい挨拶は保護者をも元気づけている。</p> <p>「親子ふれあいデー」では親・子・保育士みんなが集い、情報交換をしている</p> <p>9月開催の親子ふれあいデーは保護者参加の行事であり、保育園での子どもの様子を見ることが出来る。保育園でどんな遊びをしているのか、先生たちと自分の子どもがどう接しているのかを見る貴重な時間である。室内の環境や使用する玩具等を保護者が実際に見て納得している様子がある。また、園で提供する離乳食や軽食を保護者にも味わっていただき、親子で食を通してコミュニケーションができるよい機会となっている。11月より保育参観も予定されており保育士の子どもへの関わり方などを見てもらおうとしている。</p>		
9 評価項目9 地域との連携のもとに子どもの生活の幅を広げるための取り組みを行っている		評点(〇〇)
評価	標準項目	
● あり ○ なし	1. 地域資源を活用し、子どもが多様な体験や交流ができるような機会を確保している	○ 非該当
● あり ○ なし	2. 園の行事に地域の人の参加を呼び掛けたり、地域の行事に参加する等、子どもが職員以外の人と交流できる機会を確保している	○ 非該当
評価項目9の講評		
<p>地域と友好的な関係づくりを築くため、園の環境面に配慮している</p> <p>これまで、一般的に保育園へ出される近隣住民からの苦情の多くは、朝夕の子どもの送迎時に車や自転車を道路に停めたり、民家の前に停めているため通行の妨げになる。また、保護者同士の声が騒がしいといったものである。園は駅に近いことと人通りも多いことから敷地の一部に駐車スペースを設けている。都市化した住居地域において危険を伴う自転車や車の停車を公道や民家前に置くことを回避する試みは近隣との関係の構築に配慮した取り組みといえる。</p> <p>瑞江駅前商店会との連携行事などに積極的に参加している</p> <p>江戸川区東部地域にある都営新宿線瑞江駅は、近年区画整理事業が進み快適な環境の魅力あるまちが形成されている。人口も毎年増し約4万世帯9万人が住んでいる。瑞江地区は人の和を大切にふるまい豊かな地区であり、町会、自治会を中心に活発なコミュニティ活動が行われている。園は商店会の行事などに積極的に参加し、近年設置された福祉施設として地域住民からの理解を得られるよう連携をとっていけることを今後の目標としている。</p> <p>保育の専門性を生かし、地域に貢献できることを模索・検討している</p> <p>園は、入所する子どもの保護者と、地域の子育て家庭に向けて、保育園として子育ての専門性を生かした取り組みがどのようにできるかを模索・検討している。現在江戸川区小規模保育所連絡会で、保育の質の向上を目指した研修を開催している。さらに近隣の保育所・幼稚園との連携により、本園の子どもたちが卒園するにあたっての転園がスムーズにいけるようまた、地域の子育て環境を強めたいとしている。</p>		

事業者が特に力を入れている取り組み①		
評価項目	2-1-1	事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している
タイトル①	保護者アンケート調査の実施や職員面談などによる各意向の把握に努めている	
内容①	利用者ニーズの把握のため、行事後のアンケート調査と、年度末にSNSや職員の対応等の利用者アンケートを行い、調査結果はサービス改善のために活用している。本部主導で面談を行い園内の課題の抽出と改善について本部と協働し、より良い保育園作りに努めている。職員については、満足度調査・意向調査を実施し、年に2回園長が面談を行っている。事業所は区認可事業の地域型保育事業に位置付けられ、区の小規模保育所連絡会に所属し、区や他の保育園からの情報を得ている。法人の園長会議等においても情報収集を行い、経営課題の把握に努めている。	

事業者が特に力を入れている取り組み②		
評価項目	3-3-2	地域の福祉ニーズにもとづき、地域貢献の取り組みをしている
タイトル②	区小規模保育所連絡会の研修の対象保育園を広げて開催するなど様々に貢献している	
内容②	区小規模保育所連絡会の研修の担当として、著名な外部講師に依頼し、区役所協力のもと、対象保育園を民間の認可保育園に広げて開催し、多くの参加者を募ることができている。園長は区全体で学び合える風土を作っていきたいと考えている。事業所の定員には、法人従業員枠と地域の方の枠があるが、従業員枠を地域に開放して、地域の方に多く利用してもらっている。法人内に障がい者雇用育成の専門チームがあり、時々来園しお手伝いしている。なお、法人のこの取り組みは、『障害者雇用エクセレントカンパニー賞（東京都知事賞）』を受賞した。	

事業者が特に力を入れている取り組み③		
評価項目	6-4-3	日常の保育を通して、子どもの生活や遊びが豊かに展開されるよう工夫している
タイトル③	園が掲げる保育目標を達成するため、職員全体で子ども主体の保育を実践・追求している	
内容③	園には、元気な子・思いやりのある子・意欲のある子・挨拶をする子・感性豊かな子の5つの保育目標がある。これらの目標を達成するため保育者は年間計画・月案・週案・個別計画を立てている。計画における活動と、それに伴う保育者の配慮として、子どもの主体性をいかに引き出すかに重点を置いている。集団生活は「こうあるべき」から「子どもの思いを引き出すこと」に視点を置いて子ども自身が大きく成長することに務めている。保育者は、「子ども主体の保育」の倫理観が高められるよう、日ごろから園内研修や法人内研修などで研鑽を重ねている。	

No.	特に良いと思う点	
1	タイトル	事業継続計画(BCP)を策定し、感染症及び自然災害に分けて必要な対策をとっている
	内容	管理者は、本年度深刻な感染症及び水害や地震に備え、事業継続計画(BCP)を策定している。まず、事前対策として、地域との連携推進、防災組織の体制の構築、保護者との連携などがあげられ、自然災害の事前対策として非常時に優先的に実施する業務、施設として、避難場所経路、避難誘導、備蓄品、非常用持ち出し品などが挙げられている。次にBCP発動時の対応として、感染症、自然災害に分かれ、発災時の時間経過別の対応など、最後にBCPの検証が挙げられている。備蓄品として3日分の食料、衛生用品、医療物品、排泄用品、毛布などがある。
2	タイトル	園が提供する保育サービスの1つに病児・病後児保育事業があり、保護者への力強い味方となっている
	内容	同じ建物内に運営別の瑞江病児保育室がある。共働き世帯が増える中で、子どもの体調が悪いが、保護者も体調が悪くなり子どもを見られない、仕事で休みがとれないといったときに対応している病児保育室である。利用にあたっては、連携するクリニックを受診し、医師の許可が出た病児となりおり定数枠は4名までとなっている。室内は病児専用で同じ建物内であっても出入口は別になっている。乳児・1・2歳児は疾病への抵抗力が弱くまた心身の機能の未熟さに伴う疾病の発生が多いため、病児保育室との連携は保護者の力強い味方となっている。
3	タイトル	子育て家庭への新支援制度に伴って、乳児・1・2歳児保育が保育の専門性を持つ保育士によって豊かに育まれている
	内容	園は、急速な少子化の進行と家庭・地域を取り巻く環境の変化・ニーズに対応すべく乳児・1・2歳児の年齢の保育園として2019年に開設された。一人ひとりの子どもが健やかに成長できる社会の実現に向けた新制度の施行のより、乳児・1・2歳児の保育が保育の「全体的な計画」及び「個別計画」によって発達過程を確認しながら実施されている。園は子どもが乳幼児期を最もよく生き、望ましい未来を作り出す基礎となるよう、安全な環境を用意し、子育てを専門とする保育士によって保育を必要とする子どもの最善の利益を考慮した生活の場となっている。
No.	さらなる改善が望まれる点	
1	タイトル	現在、保育園アプリを活用して保護者に情報発信をしているが、システムとしてのICT化を進めることを期待する
	内容	各種記録類は紙媒体によりそれぞれの書式で管理をしている。保育現場において、保育園支援システムを活用してデジタル化に移行する事業所も増えている。常勤の平均年齢が36歳と比較的若い職員も多く、デジタルに慣れている年齢層であり、労働生産性の向上の観点からも、ICT化することで一元管理することができる利点があるので、具体的にさらに検討することを期待する。
2	タイトル	新卒の保育士には法人による新入社員研修など研修制度があるが、非常勤や中途採用職員についてはOJT中心で今後の制度構築に期待する
	内容	新卒の職員育成では、新入社員研修、新卒3カ月研修、新卒12カ月研修と、2年目研修、3年目研修があり、リーダー基礎研修、リーダーシップ研修、管理職研修など、キャリアに合わせて継続的に実施される研修により、資質向上に努めている。研修は研修報告書を作成し、伝達研修も実施している。一方で非常勤や中途採用職員についてはOJT中心であり、今後全体的な育成に取り組まれることを期待する。
3	タイトル	園内組織としての基本事項や手順について、全職員がさらに話し合い、周知徹底し、より安全で効率的な支援体制の確立が望まれる
	内容	法人による各種のマニュアルは、種類別に目的と手順が分かりやすいものになっている。現状としてマニュアルは何かあった時に確認するための資料となっている様子が散見される。保育サービス事業に関するマニュアルは、職員にとっては質の高いサービスを提供するための羅針盤となるものである。基本事項が曖昧であると個別対応に齟齬が生じて、保護者に戸惑いが生じたり、職員間の意思疎通が難しくなることも考えられる。基本事項や手順について、全職員で話し合い、周知徹底し、より安全で効率的な支援体制を確立されるよう取り組むことが望まれる。